

おほとものすくねやかもち  
大伴宿禰家持、坂上大嬢に贈る歌一首  
あは たんか  
并せて短歌

一六二九番

ねもころに 物を思へば 言はむすべ せむすべ  
もなし 妹と我と 手携はりて 朝には 庭に  
出で立ち 夕には 床打ち払ひ 白たへの 袖  
さし交へて さ寝し夜や 常にありける あしひ  
きの 山鳥こそば 峰向かひに 妻問ひすといへ  
うつせみの 人なる我や なにすとか 一日一夜  
も 離り居て 嘆き恋ふらむ ここ思へば 胸こ  
そ痛き そこ故に 心なぐやと 高円の 山に  
も野にも うち行きて 遊びあるけど 花のみし  
にほひてあれば 見るごとに まして憊はゆい  
かにして 忘るるものそ 恋といふものを

反歌

一六三〇番

高円の 野辺のかほ花 面影に 見えつつ妹は  
忘れかねつも